

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾 ニュース

私は1993年度、文部省道徳教育読み物資料作成協力者会議の委員の一人として文部省での会議に参加しました。その会議の中で私は、部落出身である自分の生い立ちや生きざまをさらけ出し、部落問題学習の重要性を訴えていきました。

そして、全国すべての中学校で部落差別解消への取り組みがなされていくことを願って、さきほど話をさせていただいた私の父親への思いを『スダチの苗木』という資料にまとめ、今なお血をふいている結婚差別の現実を『峠』という資料にまとめました。

結婚差別の現実をあらわした『峠』という作品は、同和教育を通してつながった、かけがえのない仲間の叫びを結集させたものであり、場面の一つ一つが紛れもない事実です。

この資料の冒頭に記した結婚式の招待状を引用しました。

これからの私たちの歩みが、力強く、そして確かなものとなりま  
すよう、皆様方の尚一層の御支援を賜わりたく心ばかりの小葉を  
催したいと存じます。御多用中誠に恐縮に存じますが御臨席賜わ  
りますよう御案内申し上げます。

私たち二人は  
現在も、そして永遠に  
すべての人間を尊敬し、すべての人間を信頼し  
真実を正視し、美を求めて、生きていこうと誓いました  
私たち、結婚します

生きるということ  
愛するということ  
相手のいのちを尊ぶこと

文部科学省中学校道徳教育読み物資料「峠」(平成6年3月発行)

〔資料の内容〕

部落差別の中で、最も深刻な結婚に関わる問題に取り組んだ資料であり、差別の本質を訴えている。被差別部落出身の幸司との結婚に反対する恵子の両親の態度に苦悩しながらも、二人は深い愛情で結ばれ、誠実に自らの思いや願いを語っていき、両親を変容させていく。

この招待状は、私が教職についた1年目に出会った、部落出身の女子生徒から送られたものです。彼女は小学校の教師となり、結婚の約束をしていた同じ職場の教師と、1991年度の板野中学校における語り合いの部落問題学習(第21回徳島県中学校同和教育研究大会公開授業)を参観にきました。そして、その生徒たちが卒業していった、3月に2人は結婚しました。

結婚までの道のり、彼女は部落差別の厳しさを痛切に感じ、その中で投げやりになりそうな自分、負けそうな自分を、相手の青年と共に、励まし支え合いながら頑張り続けてきました。この2人の姿は、板野中学校の生徒たちに、部落解放への主体的な生き方を示していきました。

猛烈に反対する母親を必死に説く青年の頑張り。その中で一番最初にこの結婚を認めてくれたのは、青年のおばあちゃんでした。一番わからないと思っていたおばあちゃんが、差別することは自分自身を苦しめ、自分の大切な孫を不幸にしていくことに気づき、一番に心を許して、「いつまでも世間体にこだわってどうする。息子のほんまの幸せを考えてやれ。」と父親や母親を説いていきました。

差別という檻から解放されたとき、人間は本当に幸せになれるんだと思います。2人はまわりの人たちを部落差別から解放し、堂々と結婚していきます。

その2人がつくった結婚式の招待状、それは2人が中学時代にそれぞれの中学校で学習した「水平社宣言」が土台となっています。